

英語**【解答】**

I	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	b	c	d	d	b
II	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	a	c	a	b	d
III	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	c	b	d	a	c
IV	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	c	d	a	d	b
V	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	b	a	b	c	d
	問 6	問 7	問 8	問 9	問 10
	c	b	b	a	c
VI	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
	b	a	a	b	d

【学習アドバイス】

2020年度の入試問題も前年度同様、Ⅰ. 会話問題、Ⅱ. 適語補充問題、Ⅲ・Ⅳ. 長文読解問題、Ⅴ. 文法・語法問題、Ⅵ. 整序英作文の大問6題構成であった。全問マークシート形式の選択問題で、連続する100分で2科目を選択し解答することとなるので、解答時間の目安は50分程度である。試験時間に対し、無理なく解答できる問題数であると言える。

全体的な難易度は高校英語標準レベルであり、高校で学習する語彙・熟語、文法・語法などの基本事項の徹底はもちろん、テキストにある応用問題も正解できることが要求される。それでは、各大問の特徴を踏まえて対策を考えていこう。

Ⅰ. 会話問題は、基本的な口語表現の理解と併せ、文脈理解を問う形式である。高校での学習を土台にした英会話基礎レベルの語や表現を用いて、会話全体の流れを阻害することのない選択肢を選ぶ必要がある。しかし、用いられている語は高校学習レベルであるから、会話のやり取りをつなぐ表現を予想しつつ選べば、正解には難くない。

Ⅱ. 適語補充問題は、2～3行の英文内の空所に適切な語を選択する形式である。提示されている語の品詞は統一されているが、似たような意味でも示す内容の違う語が並んでいる。正解となる語は高校必修語であり、その他の難しい語に惑わされないようにする必要がある。対策としては、入試標準レベルの単語集をしっかりと頭に叩き込み、余裕があれば上級単語を確認程度に行うと良いだろう。

Ⅲ・Ⅳ. 長文読解問題は、標準的な語を用いたやや短めの英文が題材として選ばれており、テーマも付されて読みやすい。問題は、適語句空所補充問題、文挿入問題、下線部同意表現選択問題、内容(不)一致問題が主に出題されている。難度が高めの語には語注があるが、語注の付されていない上級語もあり、設問中にも難しめの語が用いられていることもある。内容一致問題は、局所的な解釈は問わず、段落単位やテーマとなる物事に関する正しい把握力が問われている。問題形式の中で最も特徴的なのは文挿入問題であるが、2020年度は大問二つで一題の出題にとどまった。長文問題の最も有効な対策は、日頃から英文を読み、その情報を整理する練習である。推測や予測を用いて英文を読むことよりも、英文中で扱われる情報を整理しつつメモする練習をすると、この二つの大問の多くを占める内容一致問題に対応できる力を養うことができる。

Ⅴ. 文法・語法問題では、接続詞や時制などの基本的な文法・語法力・知識とともに、SVOCなど文の要素と品詞の理解を問うような文法構造を捉える力も問われる。様々な文法分野から出題されているが、各分野の基礎力を問う問題が中心である。受験対策用の文法・語法中心の問題集を繰り返し演習する前に、高校で学習した基本文法における自身の弱点を突き止め、克服した上で演習に臨んでほしい。

Ⅵ. 整序英作文問題は、和文が与えられている形式であるため、比較的英文が作りやすいように思いがちだ。しかし、和文の表現が必ずしも英文の表現にぴったり合っているわけではないことに注意する必要がある。つまり、与えられている語句の品詞を特定して、SVOCに従って並べかえられるように訓練することが、高得点への近道である。その上で、すでに成立している英文と和文に共通する訳を取り除き、並べ替えるべき部分の訳を特定して、前述のようにして並べた英文の意味と合うかどうかを判断するように訓練していきたい。もちろん、入試入門～標準レベルの並べ替え問題にあたるとさらに良い。

本学の入試問題は、確固たる基礎力がなければ合格するレベルは望めない。逆に言えば、日頃からの学習に手を抜かず、終えた範囲のこともきちんと習得するように努めていけば、合格の射程内となる学力の土台がある、と言える。これまでの学習での取りこぼしは、一刻も早く習得し徹底することが必須である。その上で、着実に演習を重ねてほしい。